

2022年度 地球をまもる子どもたち

板橋区立高島第六小学校◎総合的な学習の時間◎5年生77人◎4月16日

「ビオトープってなんだろう？」

2022年度 第1回学校公開授業◎講師 SOE ～ビオトープの設計をしよう～ 《何を守るの？ アメリカザリガニは？》

SOE NEWS

No.183

2022年 5月



センスオブアース 市民による自然共生 パンゲア

平成27年度地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞団体



絶滅危惧種、区の花ニリンソウが西側の校庭で大切に守られています

～🌿緑がなくなったから、また、再生するためだと思います。🌱生きものがいなくなったので、生きものを育てるためだと思います。🤝人と人の協力が大切なので、協力して作ることを大事にしたと思います。～

どれも良い点をとらえていて、感心しました。この意見を土台に「自然の命と人の命がつながると、命を大切に思う気持ちが生まれると考えたと思う。」と話しました。

高島第六小学校は、今年、ビオトープを改善しようと、先生も子どもたちも、とても張り切っています。改修の中心となるのは5年生と担任の先生、そして環境委員会の先生方です。すでに昨年、新6年生がコンクリート池の清掃に着手。今年は5年生へバトンが渡されました。

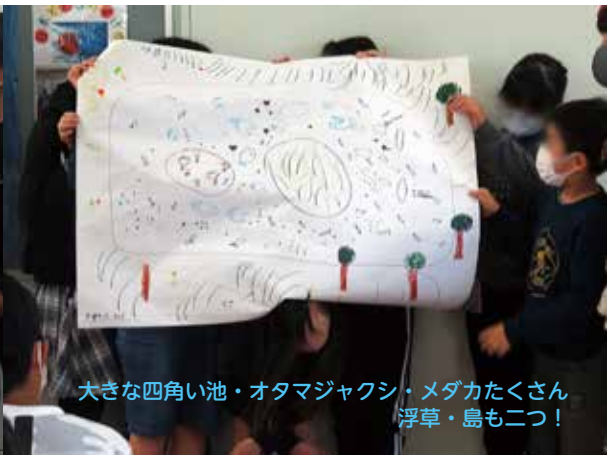
まず、改修のスタートは授業「ビオトープを設計しよう」から始まりました。最初に講師のセンスオブアースから質問。

？「阪神淡路大震災の後、神戸市のすべての学校は、ビオトープを作りました。なぜだと思いますか？」意欲的に手が上がりました。

「神戸市がビオトープを作ったわけは、木や植物を育てるためだと思う」「生き物を育てる」「協力する大切さ」



池の形はひとつにして丸くしました。島を作ってみました！



大きな四角い池・オタマジャクシ・メダカたくさん
浮草・島も二つ！



周りに木を植えて、花や実がなる緑を増やす



短い時間でも集中してみんなで設計図を作っています

～子どもたちの意見より～

☑生きものがいなくなったりしたのは人間（私たち）のせいであること、それを直すのは人間であること。☺二輪草が絶滅危惧種なのは意外だった。☑絶滅危惧種は多い。☺13分に1種類が絶滅しているのがとても残酷で心に残った。☑板橋区には、絶滅危惧種が多いのでまもっていかなくちゃいけないと考えた。☺絶滅危惧種を可能な限り守る。☑

ビオトープで学校をつないでいくのが良いと思った。☺命はどんな生物でも対等にあるから、虫とかは殺してはいけない。☑生きものが隠れられる場所を作りたい。☺生きもののいのちをまもるにはこれからも工夫して守る。☑クロメダカ・ニリンソウ・元

からいる生物を守りたい。☺アズマヒキガエル・タニシ・日本ザリガニを守りたい。☑いろんな生きものをまもれるビオトープ。☺在来種が生きやすいビオトープ。☑在来種がたくさんいるビオトープ。☺ミズカマキリ・タガメが生きられるビオトープ。☑生きものも人間と同じで大変なんだ。

《子どもたちが下級生へ伝えたいこと》 ☺高六小にはたくさんの日本の生きものがいて、大切にしないといけないということを伝えたい。☑いのちがどれだけ大事なものが伝えたい。☺ビオトープは植物や生物を守るところなので、外から来た生物—外来種は入れないようにしてください。

《これまでのこと》 1995年以降、板橋区で2番目に作られた高島第六小のビオトープ。環境担当の窪内直人先生が、ビオトープの再生をやり遂げたいと、SOE に熱意ある相談の電話をかけてこられたので、ビオトープの改修の仕方を一緒に考えたり、勉強会をしたりしてきました。高六小では、校内の組織が、先生方半分が、環境委員会に属しています。力強い組織です。今春、おやじの会の方々の力強い支援で、改修に追い風が吹きました。ビオトープづくりには、ヨシを抜いたり、高低差を見たり、かいぼりしたりなどの大人の仕事も多いです。今回の課題は、池を占領している、アメリカザリガニ。授業では、絶滅危惧種について学び、学校にあるニリンソウや、ビオトープに来るアズマヒキガエル、クロメダカなどは、絶滅危惧種の大切な植物、生きものなのだと



今の高六小ビオトープ
アメリカザリガニが王様なのか？

とらえることができました。

5年生担任 ☆庄野先生 ☆山本先生から… 新たな気づきの連続、興味津々、自然のために何とかしなくてはという気持ちになれた。自分事として捉えられた。設計の話し合い、よくやっていた。環境への危機感、自分たちにもできそうだという立場に立てた!!!



調べてみよう
学校に関東タンポポが？

身の回りの春の様子を歌にして自然の美しさ

大切さを伝えよう

板橋区立板橋第二小学校
音楽科(国語科共)・各学年の取り組み

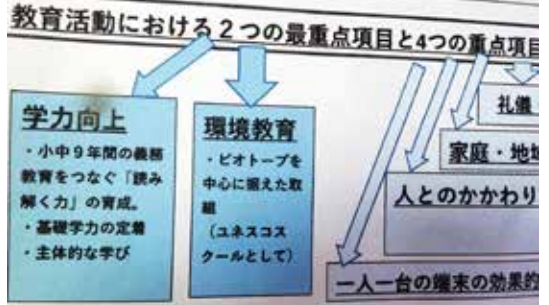
ビオトープには水辺だけでなく、たくさんの実のなる木が植えられている
すべて手作りのビオトープはオタマジャクシでいっぱいだ



板橋第二小学校には、校庭に2か所、ビオトープがあります。生きものたちが豊かに寄ってきています。板橋区の中で一番最初に、ユネスコスクールの承認を受けた学校でもあります。

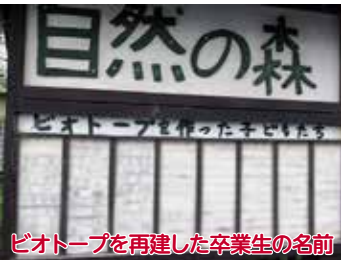
学校の組織も、研究と環境のどちらかに、

令和4年度板橋第二小学校 学校経営方針概要より



全職員が入ることになっており、右図のように、重点項目2つのうち一つが、環境教育です。全校で、「自然発見カード」「タブレットパソコンで自分で写してためてまとめる」「俳句作り」「全教科、領域でビオトープを活用して学習」をしているそうです。子どもたちの体に自然が行

きわたるような活動です。環境委員会では、水位を毎日見て、HPにアップ、昨年度の各学年の環境の取り組みも。



ビオトープを再建した卒業生の名前

1年…風となかよし、2年…野菜作り、3年…生きもの／モンシロチョウ、バタフライガーデン、私の木、4年…グリーンカーテンでへちまとゴーヤ、5年…食品ロス、たい肥作り、6年…ペットボトルを使った工作、SDGsなど

昨年度の音楽科の実践は、2～6年生の春の俳句の作品を、4年生

以上が歌にした取り組みです。

4年生が4分の4拍子で4小節の中にリズムを作り、5・6年生は俳句があらわしていることと言葉を生かした旋律づくりに取り組んだそうです。歌うことで、自然を身近に感じ、大切さを学んだといいます。全教科の中に環境教育の目標を設定し、豊かなとらえ方の、芸術実践ですね。



板二小の教育を語る右から小澤裕行校長先生 徳里美先生・矢島洋副校長先生



前環境担当徳里美先生

俳句の作品…

◆ホトケノザ

みんなにっこり うたうたう ☺ダンゴムシ 春までね
てた まるまって ◆蛙くん いっぱいとんで 楽しそ
う ☺春になり アユが元気に 川泳ぐ ◆春の星 空
見上げれば 花吹雪 ☺タンポポが 綿毛飛ばして 命
つぐ ◆雪がとけ 水面に映った 春の顔 ☺ビオト
ープ オタマジャクシが ぎゅうぎゅうだ ◆空高く 飛
び回る蝶 春を呼ぶ

八重ザクラが自然遊びの子どもたちを大歓迎してくれました

～北区自然観察公園にて～ 東京日仏国際学園◎12人 環境学習クラブ活動◎4月19日



板橋区との境、北区西ヶ原にある学園は、フランス語、英語、日本語の教育を行っている学校です。放課後活動なので、参加は自由意思。スクールバスで、観察公園にやってきました。

「いもむしのたからぶくろ」プログラムの、自然探検活動です。「いもむしのたからぶくろ」の紙芝居を日本語で読みました。アオスジアゲハのお母さんが病気になって、お母さんを助



大きくて太い木があったので、みんなかけよりました
一人ずつ、見つけたカードの絵に、シールをはっつけていきます



自然のたからもの探しへ出発だ～張り切って走り出しました
フランス人の理科の先生(左の方)も参加

けるために、子どものいもむしたちが自然のたからものを探しに行くのですが、「みんな、いもむしたちを応援してくれる？」と聞きました。すると、5歳から10歳のこどもたち、



生きもののおうち見つけた!!

みんなが手を挙げてくれました。子どもたちは、時間いっぱい探検して、最後に、見つけた自然を発表しました。

発表するごとに用意したゴム風船を膨らませると、見つけた自然の数だけ膨らんでいきます。病気のお母さんに風船の中の自然の風を吹き付けます。するととたんに、元気になったお母さん。その姿を見て、子

どもたちはほっとした笑顔になりました。「今日助けたお母さんは、学園にも飛んでくるかもしれないね。」と話をしました。観察公園が緑豊かで、子どもたちは夢中で走り回り、充実した活動でした。



森の中で紙芝居

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp